

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒個々の学びを深め進路実現を図る教育課程を編成し、学習意欲と学力を向上させる。</p> <p>②カリキュラム・マネジメントを推進し、教科横断的かつ探究的な学びを通して課題発見・解決できるグローバルリーダーを育成する。</p> <p>③特別活動等を通して主体性、社会性、協働性、創造力等の育成を図る。</p>	<p>①履修指導を通して、生徒の学習意欲と進路実現するための学力を育成する。</p> <p>②探究学習を通して、生徒の広い視野を涵養し、多角的思考力の育成を図る。</p> <p>③学校行事等を通して、協働性や主体的に集団に関わる力を養い、課題解決に向かう力や自己実現を図ろうとする力を育成する。</p>	<p>①本校の授業の魅力を整理・発信し、生徒の関心や進路との関連を重視した履修指導を充実させる。</p> <p>②講演や各行事により、多様な価値観に触れる機会を提供する。各教科における探究的活動に係る授業研究を推進する。</p> <p>③各個人、各集団が目標や課題を認識し、主体的、協働的に学校行事等に取り組めるよう、事前学習や生徒の意見交換の場を充実させる。</p>	<p>①効果的な履修指導により学習意欲や学力は向上したか。(履修登録者数や履修単位数の推移)</p> <p>②自ら課題を見出し、多角的に思考しようとする生徒の意識を醸成することができたか。(講演の振り返り、生徒による授業評価)</p> <p>③学校行事等において、主体的、協働的に取り組み、社会性の獲得や自己実現を図ることができたか。(校内外によるアンケート等)</p>	<p>①履修説明会における生徒への伝達内容を各教科でスライド化して、工夫してもらい、履修登録者の増加を図ったが、全体の履修登録時間数は例年と大きな変化はなかった。</p> <p>②外部講師の講演会や交流行事、学外機関連携により、多様な価値観に触れる機会を拡大した。ICT・生成AIを活用した探究的授業を促進した。授業評価は、例年とほぼ変わらずであった。講演等の振り返りでは、多様な価値観への視野の拡大に関する意見が多く見られた。</p> <p>③文化祭では、94.6%の生徒が主体的に楽しんで行事に参加できたと回答した。振り返りで、話す機会が今までなかった生徒との交流のきっかけになったという意見も多くみられ、行事の目的を果たすことができた。</p>	<p>①履修登録の総時間数に変化はないが、内訳に変化があり、フィールド科目履修者が減少傾向にある。生徒の関心や進路との関連性についての説明会内容を充実させて履修科目の増加につなげる。</p> <p>②授業改善は時代の流れに合わせた継続的な研究が必要である。生徒の多角的思考はまだ途上で、振り返りでは多面的な姿勢が見られるものの、授業内で視点を深める工夫や、問い返しや対話的活動による支援が求められる。</p> <p>③一部運営面で課題が残った。一層運営の質を高めるとともに、外部との連携など企画の質を上げるよう、生徒の活動を支援していく必要がある。</p>	<p>授業の充実やICT活用による学習環境の整備、多様な価値観に触れる機会の提供については評価できる。</p> <p>ICT導入を進めつつも、その活用が目的化しないよう検討している点は適切である。履修登録数が例年並みにとどまっていることや、フィールド科目の減少傾向が見られることから、授業の魅力発信と履修指導の工夫が求められる。「主体性」の捉え方について委員から指摘があったように、評価指標やアンケート設計の精緻化を図り、生徒の学びの質をよりの確に把握する必要がある。</p>	<p>①履修指導のスライド化や資料整備により指導の標準化が進み、教員間での共有が図られたことは成果である。履修登録時間数は横ばいであり、フィールド科目の履修者減少が見られるなど履修の偏りが課題である。</p> <p>②ICT・生成AIの活用や外部講師による講演等を通じて、生徒が多様な価値観に触れ、多角的に思考する機会が拡充された。探究発表においても一定の成果が見られたが、質的深化にはなお課題があり、学習効果を意識したICT活用が十分とは言えない。</p> <p>③学校行事等における生徒の主体的、協働的な取り組みにより充実感が増したが企画、運営に一部改善が必要である。</p>	<p>①生徒の進路希望や関心と結び付けた履修指導を一層充実させ、履修内容の多様化と適正化を図る必要がある。</p> <p>②探究活動においては問いの質を高める指導や対話的活動の充実を図り、多角的思考の深化につなげることが求められる。ICT・生成AIの活用については、活用目的や場面を明確化した実践へと転換していく必要がある。教員研修や授業研究を継続的に実施し、組織的な授業改善を推進することで、生徒の学びの質の向上を図る。</p> <p>③学校行事等の企画、運営にあたっては、生徒の活動を支援しながら主体性を育む必要がある。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①生徒指導・支援の組織的取組を推進し、生徒が安心して学べる学校づくりを進める。</p> <p>②部活動や課外活動を支援し、責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりが安心して学び、自己肯定感を高められる学校環境の実現を目指し、組織的な生徒指導・支援体制を強化する。</p> <p>②部活動を通して、主体性や責任感、連帯感の涵養を促し、集団活動の充実及び自己実現を図る。</p>	<p>①いじめ・暴力の未然防止と早期対応に重点を置き全職員による情報共有と早期発見及び迅速対応の仕組みを確立。年2回のアンケートを通じて、生徒の不安や悩みを早期に把握する。</p> <p>②活動発表の場や、部活動説明会、部活動表彰等を充実させ、部活動の活性化を図る。</p>	<p>①いじめや暴力、不登校などの未然防止・早期対応が組織的に行われているか。(いじめアンケートやSC等の利用率での数値確認)</p> <p>②活動実績の他、各部、各個人が、目標達成や自己実現に向けて、計画性を持って活動できたか。(担当者及びアンケートによる評価)</p>	<p>①SSWの利用率24%(30/126)SC利用率41%(59/144)と保護者も含め利用があり困っている生徒、保護者に対する確な対応ができた。いじめアンケートでは早期な対応ができ重大いじめ案件となる前に事前に防ぐことができた。</p> <p>②すべての部活に対しマネジメントチェックを行っており、計画的に活動できた。校内外で多くの成果発表の場を設けることができ、放送部やダンス部は全国大会に出場するなど成果を残した。</p>	<p>①様々な問題を抱える生徒に対し学校としてどこまで対応ができるかを見直す必要がある。支援が必要とする生徒は近年多い傾向なので全職員で対応できるようなシステムが必要である。</p> <p>②各部の活動方針や役割分担の明確化、また外部連携の強化を図る等により、生徒が主体的に関わりやすい環境を整える。その他、協働を促す工夫で活動の質を高め、成果の向上を目指す。</p>	<p>いじめの未然防止や早期対応、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用により、安心して学べる環境づくりが進められている点は評価できる。相談体制の利用が進み、支援への心理的ハードルが下がっている点も成果である。専門的対応を要するケースも増加しており、教職員の対応力向上や外部機関との連携強化のさらなる充実が求められる。</p>	<p>①いじめの未然防止や早期対応を軸とした組織的な生徒指導体制が機能し、SC・SSWの活用により多くの生徒・保護者への支援が行われているが、専門的対応を要する事案の増加や、生徒の多様なニーズに応じた居場所づくり、支援の長期化への対応が課題である。</p> <p>②実績をあげた部活動があったが、さらなる向上のため、主体性や責任感を育むことが必要である。</p>	<p>①外部専門機関との連携を一層強化し、医療・福祉分野と連動した支援体制の構築を進める必要がある。また、教職員研修の充実により専門的対応力の向上を図り、生徒指導に関する共通理解を徹底しながら生徒の多様な状況に応じた居場所づくりを推進し、組織的かつ継続的な支援体制の充実を図る。</p> <p>②外部連携を促し、その関わりの中で主体性や責任感を引き出していく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①様々な教育活動をとおして、生徒が主体的に進路目標を定め実現していく力を育成する。 ②キャリア発達課題を意識した進路指導の充実を図る。	①生徒自身が進路について考え、行動を起こせるように進路行事の開催、進路情報の提供を行う。 ②より円滑で有効な進路指導の実現のため全職員へ向け進路情報の整理・提供や生徒データの報告を行う。	①生徒の進路意識を強化するために進路説明会や校内模試の事前・事後指導を実施する。校外の活動や制度について classroom やガイダンスルーム掲示により告知する。 ②校内模試の結果を有効に活用するために職員向けデータ分析報告会を行う。進路情報を teams 上で共有する。	①生徒の校内模試への理解を深め、取り組みが向上したか。校外の活動や制度の利用件数が増加したか。 ②teams での情報提供や報告会をとおして、生徒の進路状況への理解が深まったか。	①各年次進路説明会を実施した。校内模試の事前・事後指導に Benesse マナビジョンを活用するよう指導した。インターンシップ参加人数：昨年度 37→19 仕事のまなび場参加人数：昨年度 0→1 ②Teams のチャット機能及び暗号化ファイルサーバにより進路情報の共有を行った。模試のデータ分析については紙面での資料提供を模試ごとに実施した。	① インターンシップ参加数が半減している。募集時期の5月には生徒が夏休みの予定を見通せるように、ステップアップ講座の予定を早期に示す等参加しやすい環境づくりを進める ② 模試とともに提供される Web サービスの Fine や Compass 等の活用法について職員への情報提供を進め、生徒の進路状況への理解をさらに深める。	進路説明会や模試活用、情報共有の取組により、生徒が主体的に進路を考える機会が確保されている点は評価できる。 進路選択の多様化への対応やインターンシップ等の体験機会の減少が課題であり、生徒が主体的に進路を切り拓くための機会の充実が求められる。	①インターンシップ参加者の減少が見られ、体験機会の不足が課題である。 ②進路説明会や模試指導、Teams による情報共有により、生徒の進路意識の向上と指導体制の整備が進んだ。職員に対する情報提供を進め、さらに進路指導の充実が必要である。 ②Teams を活用した職員向け進路情報の提供、共有をさらに進めていく。	
4	地域等との協働	①地域資源を活用した教育活動を行い、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する。 ②家庭、地域社会等との連携・協働により、持続可能な社会の創造を図る。	①授業やグローバル教育に係る行事等で外部資源と連携・活用し、探究的に社会問題に向き合い、多角的に思考する力の育成を図る。 ②学校・家庭・地域が相互に連携・協働し、地域住民や多様な団体の参画を得て、子どもたちが地域社会の一員として持続可能な社会づくりに主体的に関わる態度や実践力を育成する。	①外部講師や他校の生徒を招き、社会問題を議論する行事を実施する。国際交流行事については、持続可能な実施を目指す。 ②地域住民や関係団体と連携した体験活動や学習活動(環境保全、防災、福祉、伝統文化、地域清掃など)を年間計画に位置付けて実施する。	①自ら課題を見出し、多角的に思考しようとする生徒の意識を醸成することができたか。(講演の振り返り、生徒による授業評価) ②地域・保護者参画行事の実施回数や地域課題解決型学習の実施回数が増加しているか。	① 近隣校と協働した国際交流行事を実施し、生徒が多様な価値観に触れる機会を広げた。また、地域の講演会や外部イベントを積極的に案内することで、社会課題や国際的テーマへの関心を高める学習機会を拡充した。 ②地域清掃を実施した他、一部の部活では地域と連携して近隣施設での演奏会を実施することができた。防災対策について神奈川県工業高校や二ツ谷小学校と連携をして防災訓練を行った。	① 国際交流や協働イベントでは、相手校との調整に時間を要し、円滑な連携体制の構築が課題となっている。また、講演会や交流で得た学びを授業や探究活動へつなげる工夫や学びの深化に向けた指導の充実が求められる。 ②防災備品を個々に小分けし有事の際にすぐに対応できるような備品を検討	国際交流や地域連携活動を通じて、生徒が多様な価値観や社会課題に触れる機会を確保している点は評価できる。韓国やニュージーランドとの交流、地域と連携した防災訓練の実施などは実践的な学びにつながっている。他校との連携や交流事業における調整の難しさが課題として示されており、持続可能な実施体制の構築が求められる。防災備蓄については数目標の設定など、より具体的な計画性の向上が必要である。	①国際交流や地域連携活動を通じて、生徒が多様な価値観や社会課題に触れる機会を確保している点は評価できる。費用負担の増加や参加機会の偏りが見られ、公平な機会の確保が課題である。 ②近隣校との協働による交流や防災訓練の実施など、実践的な学びにつながる取組も進められている。突発的な受入れ対応における調整体制や、防災対策の具休性にも改善の余地がある。	①持続可能な国際交流の在り方を検討し、費用や機会の均衡に配慮した実施体制の構築を進める必要がある。交流事業の運営体制や役割分担を明確化し、組織的な対応力の向上を図ることが求められる。 ②地域連携を教育活動と一体化させるとともに、防災対策については備品整備や運用の具体化を進め、実効性の高い体制を構築する。
5	学校管理 学校運営	①社会の変化に対応し、柔軟かつ迅速に教育課題に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。 ②教育計画とのバランスを図り、教員の働き方改革を進める。	①保護者及び地域から信頼を得られるようホームページや説明会等の内容を充実させ、社会との関係を構築する。 ②教育計画と整合性を保ちつつ、校務の適正化、教員の負担軽減、ワークライフバランスの改善に向けた業務改革を具体的に進める。	①ホームページ更新の頻度を上げ、掲載情報も充実させるとともに、学校説明会等で提供する情報の最適化に努める。 ②業務の精選と ICT 化による効率化、職員間での業務分担の明確化と協働の仕組みづくりを各グループで行う。	①ホームページで教育活動の周知ができていたか(アクセス数)。効果的な説明会を実施できていたか(アンケート)。 ②各グループで改善点があったか。校務分掌の満足度や実感値で実効性を確認する(アンケート、ヒアリング)。	①ホームページやリーフレットの情報を整理し、広報の工夫に努めた。HP アクセス数は把握することができなかったが、翔鷗祭の中学生とその保護者来場者数が前年度 1828 人から今年度 2769 人に増加し前年度比 151.5%を達成した。学校説明会についても、入学後のミスマッチを防ぐために、必要な情報伝達に力を入れた。 ②電話受付の課業時間外の廃止 teams チャットなどオンライン上の対応で業務の効率化を図った。	①引き続き、ホームページの見やすい構成作りを努める。また、行事や部活動など学校生活に関する情報を更新していく必要がある。 ②業務の精選や業務分担の見直し、業務バランスの可視化など更に推進必要。	ICT の活用による業務改善や Teams の運用見直しなど、組織的な業務効率化の取組は評価できる。広報の工夫により学校の魅力発信が進み、志願者増加につながっている点も成果である。学校の特色を明確に打ち出した広報戦略や SNS 活用の検討は今後の発展が期待される。数値目標や成果指標の明確化により外部への説明力を高めること、教職員の働き方改革のさらなる推進が求められる。	①広報活動の工夫により学校の魅力発信が強化され、来校者数の増加など具体的な成果が見られる。 ②ICT の活用による業務効率化や情報共有の改善により、学校運営の円滑化が進んだ。業務負担の偏りや業務の精選が十分とは言えず、働き方改革の推進に向けた課題が残されている。各取組の成果を客観的に示す指標の整備や可視化も不十分である。	①本校の多様な資源を今後も魅力的に発信できるようつとめ、ホームページやリーフレット作成を工夫する。 ②ICT 活用をさらに推進し、効率的な業務体制の構築を進めることが求められる。また、業務の精選や分担の見直しを進め、業務量の可視化による負担軽減を図る必要がある。取組の可視化と継続的改善を図り、持続可能な学校運営の実現につなげる。